

JICA シニアボランティア 千葉

SVニュース千葉 第33号

2020年10月7日発行

千葉県JICAシニアボランティアの会

chibajicasv02@gmail.com



本号目次

通常総会・会長からのご挨拶・活動報告会	1
出前講座	2-3
会員だより	4-5
派遣国事情	6-7
JICA千葉デスクだより・お知らせ	8

2020年度の総会をネット形式で開催

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、本年度の講演会は中止となりました。また、総会は通信手段を活用して実施いたしました。

皆様から頂いた賛否票の返信及び委任状の総数は61通であり、2019年度の会員資格者総数の99名の過半数を超えていますので、総会は成立しました。1号から7号までの議案が、原案の通り全て承認されました。

会長挨拶

三輪 達雄

今年度（2020年度）の総会は、新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」のなか、4月30日までにネット上での議決という異例の形で行われました。その総会での新役員承認を受けまして、5月16日にWebでの役員会を開催し、私が新会長に選出されました。当会は2003年の発足以来、先輩諸氏のご努力で会員は百名近くに達し大きな組織となりました。そのような偉大な組織の会長という職を担うことは、大変名誉なことで緊張しております。

現時点では、全世界的なパンデミックの影響で、JICAから派遣されていた海外協力隊員は、全員、一時帰国になっている状態です。2019年12月31日現在のJICA統計によりますと、これまでのボランティア総数は54,106名であり、シニアボランティアについては、累計7,082名となっており、JICAにおける海外

ボランティア派遣は、世界的に広く認識されている事業となっています。同じ統計では、千葉県のシニアボランティア派遣総数は412名となっていますので、そのなかのほぼ1/4の100名近くの方が本会に加入されていることとなります。

2020年春募集より、JICAのシニアボランティアの定義に変更があり、本会の会員募集にも影響が出そうです。今後の成り行きについては不透明なままですが、今後も会員勧誘に努力してまいります。



第29回活動報告会

9月5日（土）、千葉市国際交流協会プラザの個別相談スペースで、本年1月に帰国した中から、2名のシニアボランティアによる活動報告会を行いました。



JICA東京センター所長

来賓には、JICA東京センター所長 田中泉氏、同市民参加協力第1課 柿沼潤氏、JICA千葉デスク 木村明日美氏、JOCV千葉OB会 平澤昭雄氏、浦安市国際センター・センター長 渡辺静雄氏にご来場いただきました。

報告会の冒頭、来賓を代表し

てJICA東京センター所長よりご挨拶をしていただきました。

JICA東京センター所長は、全隊員が国内にいる状況、彼らの国内でのボランティア活動の状況、JICAの今後の見通しなどをお話されました。特に、帰国している隊員が妻恋村でキャベツ収穫のプロジェクトで働いている状況のチラシを配布して、任地だけでなく日本にいてもボランティアの精神を生かすことが重要だと強調されました。

報告会には、暑い中、また、新型コロナ感染症の流行の中、会員17名、一般1名の参加者がありました。

新型コロナ感染症対策として、入場を35名に制限しており、また会場に行けない方のための動画配信を行うという広報もしてありましたので、直接の参加者は多くありませんでした。



当初は、参加者が多くなったら、後から来られた人は、入場をお断りしなければならぬと考えていました。

今回の発表者は、前回2月の活動報告会で発表できなかった3名を予定していましたが、発表直前、畑野氏が事情により発表できな

かったため、2名の発表となりました。それで、高崎忠信氏「カンボジアでの2年間の活動と生活を振り返って」、高田将之氏「チリ共和国の剣道事情」と、2つの国々での活動状況の発表となりました。

それぞれの報告者からは、パワーポイントで作成した資料を使って、活動内容、現地での体験、現地で気づく日本の伝統文化との相違等々、分かりやすい活動報告がありました。発表者にとっては、貴重な社会還元の間であり、何とか報告会を開けたことは、大きな成果となった様です。

出前講座レポート (2019年11月～2020年2月)

うらやす市民大学本講座 (2019年12月)

記録：うらやす市民大学コーディネーター 登内 明

第10回「私のキャリアとJICAボランティア活動」

12月4日 (水)

講師 中西 陽典

1. 講師経歴の紹介

民間企業で海外事業に関わる業務に携わり、退職後はJICAシニアボランティアとしてドミニカ共和国、アルゼンチンで活動しました。



2. JICAボランティア活動を通じて得たもの (アルゼンチン)

任国事情および活動内容を紹介。中小企業の現状と課題について講師の思うところを詳細に説明。また自身の反省点を

述べ、開発国支援に対する提言を示しました。

3. キャリアを通じての学び

海外でのキャリアを通じて、世界が多様であることに気づき、人々の考え方、暮らしが独自の文化を形成していることを学んだことを伝えました。また自身の経験から得られた異文化に対する大局観を述べました。

4. 国際協力のありかた

国際協力の意義、主体となるもの、形態などについて自身の経験を基に説明しました。

講義開始前に、受講生と講座全体の振り返りを行いました。受講生からは観光案内的なものではなく、講師自身の感じたことを一人称で伝えてもらうことが良いとのご意見をいただきました。次年度以降の講座の参考にしていきたいと思っております。

講義の内容は極めて濃いものでした。また講座終了後の受講生アンケートで、中西講師の再登場を要望する声が多々ありました。

各地域での出前講座 (2019年11月～2020年2月)

「私のキャリアとJICAボランティア活動

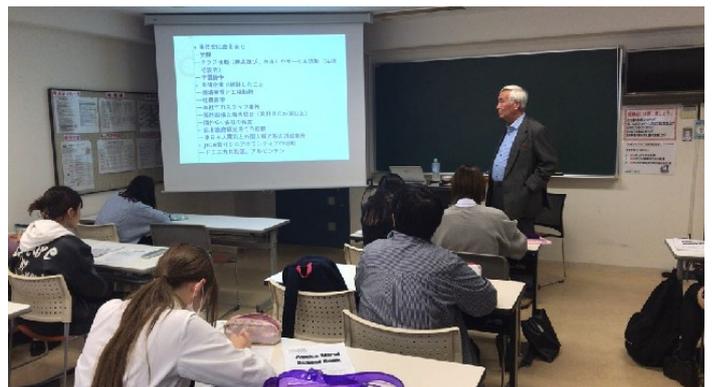
－国際協力活動の実践例として－

飛鳥未来高校千葉キャンパス

11月11日 (月)

講師 中西 陽典

2時限に渡る授業で、1時限目は国際協力の実践例として、アルゼンチンにおけるボランティア活動を資料と写真を用いて紹介。生徒の理解、関心を考慮して、アルゼンチンの歴史、風土、文化、生活、観光の説明、紹介に重点を置き授業が行われました。2時限目の授業では、これまで経験してきたことや



キャリアを通じて学んだこと（特に世界の多様性、チームプレーの重要性、人を評価する際の基準、柔軟で客観的、複眼的なもの見方、困難に遭遇した時の気持ちの持ち方）、国際協力の概念、主体、国際協力の現状と形態、JICAのボランティア活動の紹介が、これから自身のキャリアを形成していく生徒の皆さんに理解してもらえるよう留意された表現で説明が行われました。さらに双方向での授業が出来たら、生徒の関心、理解をより深め、授業がより活性化できたかも知れません。

アフリカで活動する意思はあるか、これまで活動した国の中でどこが一番印象的だったかといった質問が出ました。

飛鳥未来高校は通信制の高校で、生徒の多くは何らかの事

情で全日制の高校に通えなかった（不登校、経済的な事情等）人たちが多いということだったので、大学進学以外にも様々なキャリアパスがあること、キャリアを形成していく過程で大切なこと、気持ちの持ち方等に力点を置いて説明がなされました。アルゼンチンの紹介も含め、色々な世界があることも含め、参加生徒の多くは関心を持ってくれた様です。

現地での生活や活動を紹介する動画、民族衣装や民芸品等現地の物品の展示を加え、参加者への問いかけといった、双方向のやり取りも交え、講座が活性化し、参加者の興味、理解、印象も深まると思われます。

「ブータン王国という国」

柏市立豊小学校

2月7日（金）

講師 三輪 達雄

小学校の6年生103名を対象に、まずはJICAの活動、ボランティアとは何かということから説明し、その後、自己紹介の中で獣医師という職業について説明しました。講師の三輪さんは牛専門の獣医をされており、共同組合を作る手助けのために定年後、2年間ブータン王国へボランティアに行かれたそうです。生徒たちはちょうど将来の職業について学んでいたところだったので、興味深く聞いていました。

その後、人口が柏市と我孫子市を合わせたくらいであること、国の広さは九州くらいであること、言葉が20くらいあるが英語が通用すること、国旗の意味などについてブータンの概要を説明しました。そして、ブータンの生活や風景が、多くの写真を用いて紹介されました。また、「国民総幸福」という指標を国の目標にしていることや仏教の不殺生戒を信じていることなど、そのユニークさについても説明がありました。



最後に質問の時間を設けると、「ブータン王国の家の造りはどうなっているのか?」とか、「ブータン王国の首都はどこか?」などという質問だけでなく、「野良の動物が死んでしまった時はどうするのか」といった難しい質問も出て、参加していた小学生のレベルの高さを知ることができた授業でした。

出前講座の講師募集

あなたも、出前講座の講師登録してみませんか？

まだ、出前講座の講師登録をしていない会員の皆様、講師になって皆さんの前でお話してみませんか。

現在講師登録をされている方は16名ですが、当会講座担当として今年の活動方針を下記のように定めており、新たに出席講座活動に参加される会員の皆様に募集しております。

- (1) 当会の国際理解活動の更なる活性化を図りたい。
- (2) 貴重な経験知識をお持ちの会員の皆様に、国際理解活動に参加いただく機会をこれまで以上に提供したい。
- (3) 国際理解に関する地域の様々なニーズに、よりの確に
応えたい。

これまででは地域の学校、公民館等から出席講座講師派遣の

ご要請をいただいても、ご対応頂ける適当な講師の方の応募がなく、特定の会員に重複してお願いせざるを得ない例が何回もありました。一方で、「こんな事なら話しても良い。」という考えをお持ちの方もおられると思います。会員の皆様は、貴重な経験をされた方ばかりですから、皆様のお話は、地域の方々にとっても大変有益と確信します。

当会では、講師登録者全員に発表する機会を持ちたいと現在約20名の講師を必要とする講座を企画しております。講話を引き受けても良いという方は、下記担当までご連絡いただきたく、お願い申し上げます。

出席講座担当：佐々木 英夫

etsutohide@yahoo.co.jp

会員だより

「千葉県JICAシニアボランティアの会」に係る 私の履歴書

上田 義晴

2005～2008年の間、事務局長

私は、タイへのシニアボランティア派遣第1号となり、続いてラオスで活動しました。帰国後の2004年に当会に入会し、2005年～2011年の間、役員、顧問を経験させて頂きましたが、その内2005年～2008年の丸4年間、事務局長を担当させて頂きました。当時の思い出/経験談を披露し（現在年齢85歳）今後の当会運営/活動面の一助にして頂ければ幸甚に存じます。

JICAと共に

私が当会事務局長時代に、最も注力しましたのは、JICA本部との付き合いでした。JICAが目指している方向付けを、いち早く捉え当会活動に繋げていくため、JICA本部の青年海外協力隊事務局長との人脈作りに注力致しました。その結果、当時の当会総会、定例会や公開講演会等には、殆どJICAの協力隊事務局長に来賓として参席頂いてました。

当会のPR活動の中で特に評価が高かったのは、「SVニュース」です。当会の「SVニュース」に対するJICA上層部の高評価のお蔭で当時のJICA支援金が毎年配分されていたと記憶します。

千葉県、千葉市の後援を得て

当会の開催する各種イベントに、千葉県、千葉市の「後援」を取り付ける仕事も大変な労力を要しました。千葉県、千葉市の教育委員会等にも何度か足を運びましたが、残念ながら私の在任中には、実現出来ず、私の後任の事務局長津田正

臣さん（元会長）のご尽力のお蔭で実現出来ました。

千葉市国際交流協会との付き合い

千葉市国際交流協会（以下、CCIAと記述）との付き合いも相当なものでした。私が在任中には、当会の総会、講演会、帰国報告会等の多くは、CCIAで開催していました。当時のCCIAの事務所は交通の便も良かったので重宝していました。何よりの魅力は会議室や設備/ロッカーが無料で使用出来たことです。

私は、ご恩返し国際交流の一環として、CCIAで、2004年～2018年まで、在住外国人に対する日本語指導のボランティアをやっておりまして、在住タイ人の為の日本語教室を毎週土曜日午後会議室を借り切って丸5年間無償でのボランティア活動をやってきました。また、CCIAが毎年開催していた日本語スピーチ大会には、私が教えていた生徒達を5年間出場させた実績もあります。



私が当会事務局長時代にお世話になりました品川会長ほか役員各位には、常々感謝しておりましたが、当会の将来は、新役員の皆様方のご活躍にかかっておりますので引き続きよろしくお願い致します。

JICAボランティアとうらやす市民大学

登内 明

うらやす市民大学について

私はシニアボランティア派遣から帰国後、「うらやす市民大学」（以後市民大学）に入校しました。この市民大学は浦安市の行政組織に属しており、その趣旨は以下の通りです。

1. 地域に貢献する協働の担い手を育成する。
2. 受講生と講師の対話型授業。
3. 講座は「出会い」「気づき」「担い」の科目群で構成される。

この中で「地域に貢献する協働の担い手の育成」がJICAボランティアの使命である「帰国後の地域社会への還元」につながるのではないかと、また、シニアボランティアの体験から受講生に地域の担い手となるための「気づき」を与えられると考えました。

2017年度、2018年度の活動

2017年頃より、JICAの活動の紹介を市民大学学長、副学長、事務局に行い、2018年度より本校のオープン講座（正式な講座とは別に本校の趣旨に沿った内容にて主にボランティア講師により多岐にわたる分野の講座で構成される。すべて無償で対応する。）にJICAボランティアシリーズ講座（6講座）を設定しました。その内容が高く評価され翌年（2019年度）から講座名を「開発途上国から学ぶ」として市民大学の「気づき」系科目群の本講座として認定されました。

2019年度の活動

2019年度は当会の会員による9講座（実際はガイダンス講座含めて10講座）が実施されました。会員の現地の活動内容を中心に講義を組み立て、自身が活動を通じて学んできたことを受講生にわかり易くお話しする対話重視型講義で進めました。

当講座は開始初年度であったにもかかわらず多くの受講生が参加され、前出のオープン講座同様に高評価を得ました。

2020年度の活動

2020年度についても講座継続依頼があり、講座名を新たに「異文化社会から学ぶ」としてJICA活動を通じて異文化社会から学んできたことを講義するプログラムが出来上がり、千葉県JICAシニアボランティアの会として市民大学の本講座カリキュラム2年目を迎える状況でありました。しかしコロナの影響により、今年度は市民大学のすべての行事が停止され、残念ながら当講座も実施には至りませんでした。

今後の見込み

来年度（2021年度）以降、コロナに収束の兆しが見えれば当講座は実施され、当会と市民大学のコラボによる地域貢献活動は今後も継続されるものと思われます。

JICAボランティアの方々は異文化社会で貴重な体験をさせてきています。是非、その体験から学びとったことをうらやま市民大学の講座を通して地域社会に還元し、協働社会形成の一助として頂きたいと思います。



私のボランティア活動

弓 貞子

スペイン語との出会い

私がボランティアから帰って10年になります。当時の記憶が薄れて来ていますが、今でも必至に忘れまいとしがみ付いていることの一つにスペイン語があります。そもそも65歳でボランティアが決まり、2か月半の訓練所での特訓は、スペイン語のABCから学ぶことで始まりました。ですから現地に行った時の語学レベルは、皆さんには容易に察しがつくと思います。無口な日本人状態でかなりの期間過ごし、というよりも全期間ほぼ失語症状態だったという方が正確でしょう。

その苦勞させられたスペイン語に今も何故？と思われるでしょうが、理由は幾つかありました。難しかっただけに引き下がりたくない意地、現地の友達と少しでも関係を続けたい、できたら現地ですでできなかった活動の借りをここで少しでも返せたら（夢）、頭の体操に…などでした。

スペイン語通訳に

6～7年前、友人から日赤に語学ボランティア（語学奉仕団）があることを教えてもらい、さらに、その関係でCONESPAという千葉市を中心に活動している「スペイン語お助け隊」も紹介されて、今は二つのグループで一応スペイン語通訳としてお手伝いをしています。CONESPAの方は、医療通訳だけでなく生活全般にかかった依頼に対応しているので、市役所、学校、入国管理局、運転免許その他いろいろの場で活動していますが、私は医療だけのアテンドです。多くは中南米からの出稼ぎ者や日系3～4世で在日生活20年以上と長い方もいますが、書類などの漢字が彼らには難題です。

医療通訳として

医療通訳は依頼者が希望する県内の病院やクリニックへ行き、患者と医師の意思疎通の仲立ち、治療・検査などの理解・納得ができるように説明したりするのです。1か月2～3回、多い時は4～5回は出向いていますが、語学力のない未熟者なので辞書片手に汗かきかき、反省することも度々です。幸い昔取った杵柄の知識を生かして、医師の病気の説明などは問題なくやれているつもりです。ずうずうしく続けています。

ボランティア経験者の皆さんにはお分かり頂けると思いますが、ボランティアとは言いながら、実はそのお陰で新たな医学知識など、多くを学ぶ機会になって自分に還元されていることを痛感しています。皆さんも能ある鷹爪を隠さず、躊躇なく活躍の場を開かれたら如何でしょうか。



コロナ状況下での活動

緊急性のある病気（眩暈や痛み他）、難病などで定期的な検査・服薬が必要な人以外は、要請があってもお断りしています。後に回せない事態は体にはつきもの、その場合は細心の注意と覚悟をして臨んでいます。

派遣国事情 派遣国に関する、会員からのホットな現地情報です

コロンビア 職種 品質管理・生産性向上

「中小企業に対する生産性向上活動」 大西 和夫

コロンビア第二の都市、メデジン

2018年3月から2年間コロンビアのメデジン（首都ボゴタに次ぐ人口300万都市圏）で現地中小企業に対する生産性向上を指導してきました。

メデジンは別名「常春の街」とも呼ばれ、川に沿った標高約1,600mの高地に位置し、郊外の高い場所には特産の花やコーヒー農園があり、年間を通じてスコール以外に雨も降らず、さらっと乾燥した気候なので、日本に戻って豪雨や湿度の高い天候と地震などの自然災害の多さを再認識しています。

色々な業種での改善の指導

私自身、同じJICAシニアボランティアとして2015年から2年間メキシコで自動車産業関連中小企業を指導してきましたが、その経験を今回の活動にも活かすことができました。



コロンビアは、同じ中南米でも自動車関連企業がほとんどない地域です。電機、アパレル、食品、薬品などの指導を行ないましたが、生産性向上即ち利益向上を目指すのは万国共通で、悩みを抱えた経営者の多いことにここでも驚かされました。

私の手順は必ず企業経営者とその悩みを共有することから始

め、課題と現実を照らし合わせながら具体的な目標と納期を達成するために誰がいつまでにどうするかを決めて行きます。そして1ヶ月毎に再訪し、進捗管理しながら改善を進めました。

メキシコに比較して、コロンビアでは基本的な要素をしっかりと展開することで比較的容易に向上が可能でした。1つの企業には平均6ヶ月間をかけて計13社と協働活動することができて企業から大変喜んでもらえました。

後半には講演依頼も多く、利益率向上のための解決手法を延べ12回、動員数600名（約200社）に対して実施し、好評を得ました。

一時帰国

そんな中、中国武漢で新型コロナ拡散の情報が入ってきます。私はもともと帰任予定だったので帰国準備をしていましたがヨーロッパからアメリカにも急速に広がり、次々とフライトキャンセルとなり始めました。しかし、JICAの判断と行動力のおかげでコロンビア国内の全隊員が僅か1週間程度で無事（一時）帰国できました。

日本に戻って

一方、戻って分かる日本の食文化のすばらしさに感嘆します。日本だけで生活している方々、或いは旅行で外国訪問するだけでは気がつきづらいでしょうが、長い間海外で生活した人はこの日本のすばらしさを実感できます。魚の種類や鮮度、ブランド肉、米・野菜などあくなき品種改良、冷凍技術、運搬流通システム、安価で多様な料理方法。我々にとっては当たり前になっていますが、どれも誇りをもって世界に広めることが可能で、これぞビジネスチャンスです。

今回も含め17年間を海外で暮らしてきた私ですが、それを通して日本と海外を比較できました。世界との交流がますます盛んになるので今後もできる範囲のことをやっていきたいと思います。

1カ月程度と聞いていたので、荷物もほとんど置いたままでの帰国となりました。その後どんどん状況は悪化し、未だ復帰の目途が立たないのが現状です。



コスタリカ 職種 体操競技

「活動中にコロナの波に遭遇し」

服部 正

一時帰国へ

2020年3月上旬、コスタリカでも新型コロナウイルスの情報があふれるようになり、私が指導する練習場でもコーチが生徒たちに言っていました。「今日からあいさつのハグやハイタッチは禁止です。挨拶は日本式のお辞儀、ハイタッチは肘でするように。」生徒たちも面白がってお辞儀をしていましたが、まだ緊迫感はありませんでした。その後すぐ、公立学校は休校になり、3月第2週目からは練習場も閉館になりました。まだ、国内感染者合計が20名程度の時です。我々JICAボランティアに一時退避命令が出たのは3月17日で20日には、もう出国していました。

体育競技の指導

コスタリカでは、スポーツ庁が管理する練習場で生徒約200名を指導する傍ら、公立学校へ出向いての指導や同僚が指導する外国人学校での指導もしていました。また、何人かのJICA同僚とチームを組み、コスタリカの地方への出張指導も数回行ってきました。体操競技は体育授業で扱われておらず、マットや跳び箱などの練習器具もないので、なかなか普及には時間がかかります。また、気がかりなのは練習中に平行棒で肘

を脱臼した10歳の女の子が、4か月後練習に復帰しましたが、肘が曲がったままで倒立をすると傾いてしまい、真っすぐにできなかったことです。バク転や宙返りもできたのにかわいそうでならず、リハビリの隊員にもなんとか少しでも修復できないかと相談し、また保護者とも話し合っていました。途中での帰国になってしまい、無念な気持ちでいっぱいです。コスタリカの同僚とはSNSで連絡を取り合い、生徒たちの現状を確認しています。早くいつもの日常が戻ることを祈る今日この頃です。



ミャンマー

職種 コンピュータ技術**「ヤンゴンでの共生について（その2）」 島中 一俊****ICT専門学校への派遣**

2020年3月末までミャンマーのICT専門学校に派遣されました。予定任期は4月下旬のため、幸いコロナ禍の影響は最小でした。任務は、教科書の刷新とその技術移転でしたが、なんとか完成した教科書で現地の先生が新規コースを開催し結果を受けて改善もできました。胸を撫で下ろすと共に貴重な経験ができたことに感謝しています。

天国の様な街、ヤンゴン

本投稿では、任地ヤンゴンでの生活を紹介します。ヤンゴンは、遷都により首都ではなくなりましたが、いまだ経済活動の中心です。スーパーには日本食材のコーナーも有り、家電からスマホまで基本何でも手に入ります。また、治安は良く食事は旨い。年中半袖で暮らせてフルーツは安価と、まさに天国の様な街でした。

日本人との類似点と相違点

それに、本当に親日国です。（一例ですがタクシーはほぼ

100%日本製!）。しかも真面目で温厚、建前を重んじ日本人に近いマインドセットを持っています。両者の古くからの農耕民族としての文化慣習が類似性を生み、さらに思考に関係する文法（動詞が最後）が日本語と同じなのも影響している気がします。加えて多くのミャンマーの子供にも蒙古斑が有り、遺伝子レベルの類似かも知れません。

一方相違点では、急に辞める等、ビジネスでの関係構築が難



しい一面が有るそうです。これは、「腐るので貯めないこと」が太古からの思考の拠り所で、信用や人間関係も場当り的なのかも友人は言います。真偽は不明ですが、ミャンマー人を理解する上で参考になるかも知れません。



南アフリカ

職種 建築**「虹の国、南アフリカ」**

吉田 啓一

任地ナマハレ (Namakgale) の人々

世界で一番犯罪の多い国、アパルトヘイトと戦うネルソン・マンデラが27年ぶりに解放され民族の和解と協調を進める国、広大なサバンナと動植物、南アフリカは刺激と魅力に満ちており、70歳をまじかに2年間暮らすにはこの上ない国と思った。

任地のナマハレは、首都ヨハネスブルグから500km離れた黒人の鉱山労働者のために作られた町で、今も人口の99.9%は黒人である。華麗な住宅街区、公園、図書館、郵便局などが近代的に整備された白人の住む町と異なり、ナマハレの家々はコンクリートブロックの壁がむき出しで、郵便局や銀行などの公共施設は真新しいスーパーマーケットのコーナーにある。肌の色で利用できるトイレ、バス、レストランが異なるなどの差別は見られず、裕福な黒人が白人居住区に住み始めている。一方、地

元の釣り大会では、白人と黒人の釣る場所は誰が決めるでもなく区分されており、お互い距離を置きたいようである。

職業訓練校の地域格差と対策

配属先の職業訓練校の生徒は全員が黒人で、校長はじめ講師やスタッフも99%が黒人だが、訓練校にも黒人への優遇政策が見てとれる。授業に一定時間出席すれば、生徒は移動費、住居費のほか生活費の支援を受けることができ、多くの生徒は妻子など家族持ちで支援金をもらって仕送りをしている。訓練校の目的は高い失業率27.6%の対策にある筈だが、卒業生にアンケート調査をしたところ就職率は3%と極端に低い。背景には、実務経験のない講師の指導レベルが低く、訓練校も講師も生徒への就職斡旋をしないなど様々な課題がある。他方、出前授業で出かけた優良校のケープタウンの訓練校は、校長が白人で講師と生徒は白人と黄色系が半数以上を占め、講師は実務の経験があり、卒業生の半数以上が就職または上位校へ進学するなどナマハレ校とは大きな差がある。

この地域格差の対策は日本によくみられるスタッフの人事異動やスタディビジットなど幾通りもあり、訓練校と中央の担当省へ対策を説明したものの、課題が大きく赴任中に変化を起こすまで至らなかった。

虹の国

任期を終えて帰国し、南アフリカの旅行記やドキュメンタリーなどのTV放送を見ていると、ボランティアで行く前とは当然ながら南アフリカが身近で違って見える。ラグビーのTV放送でコサ、ズルー、ソトの黒人の民族語とオランダ語ベースのアフリカーンスと英語で歌う国歌を聞いていると、昨日のように胸がときめく。360度見渡せる草原やサバンナに寝そべるライオン、群れる鹿、象、カバなどを身近に見ることができ、様々な民族と言語、宗教

など多様性に富む人々と暮らし仕事ができる南アフリカは、ボランティアにとっても虹の国だと思う。



JICA 千葉デスク だより



2020年6月よりJICA千葉デスクを引き継ぎました、木村明日美と申します。私は2017年10月から2年間、協力隊員として中央アジア・キルギスの田舎にある子供教育センターで小中高校生を対象に手工芸やリサイクル工作を教えました。最初の1年間はカウンターパートがおらず試行錯誤でしたが、2年目に育休から復職した先生がカウンターパートになってからは、本当に楽しく充実した日々でした。彼女とは今でも頻りに連絡を取り合う大好きな「キルギスの姉」です。キルギス人の口癖に「クダイ・

ブルサ」という言葉があります。「神があてがったなら」という意味で、大体は未来の計画の話の後に「実現するか分からないけどね」というニュアンスで使います。最初はこの言葉が好きではありませんでしたが、活動終盤には「カウンターパートと出会うために神が私にキルギスという任国と苦悩の日々をあてがったのかもしれない」と思うようになりました。

コロナウィルスの混乱のさなかJICA千葉デスクに就任し戸惑うことばかりですが、「神がこのタイミングでJICA千葉デスクの仕事をあてがってくれたのだ」と感じてやる気に満ちています。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆さまのお力をお借りしつつ、千葉県の国際理解促進に向け頑張っ参ります。どうぞよろしくお願い致します。

当会からのお知らせ

2020年度 役員

・会長 三輪 達雄 (我孫子市)	・幹事 中西 陽典 (我孫子市)	・幹事 吉田 啓一 (多古町)
・副会長 添野 良一 (鎌ヶ谷市)	・幹事 井上 雅夫 (市川市)	・幹事 高崎 忠信 (佐倉市)
・事務局長 高瀬 義彦 (柏市)	・幹事 佐々木 英夫 (流山市)	・特任委員 登内 明 (浦安市)
・会計監査 伊藤 義博 (千葉市)	・幹事 畑野 郁子 (習志野市)	(うらやす市民大学と連絡)

・2020年4月から9月までに、以下の方々より当会に合計6,200円の御寄付がありました。大変ありがとうございました。

村田淑子、高田将之、高崎忠信 (敬称略)

・各種イベントで景品として使用する外国からのお土産、及び活動報告会などで展示する写真を募集しています。chibajicasv02@gmail.comまで、特に最近ご帰国の方は、是非お寄せください。

・退会の際は、名簿の誤りを防ぐため、退会届をWebサイトからダウンロードし、記入後、電子メールか郵便で当会事務局宛てにお送りください。

会員の動静

会員数 94名 (2020年/令和2年9月末現在)

2020年2月以降、当時派遣中だった方々は、新型コロナウイルスの影響で、全員派遣を中断し、一時帰国されています。また、それ以降に派遣予定だった方々は、派遣を見合せておりません。

2020年9月末日現在の派遣中 (一時帰国中) 扱いの方は

次のとおりです。(敬称略)

・麻生 伸彦 (茂原市)	バヌアツ	コンピュータ技術
・岩井 潮里 (千葉市)	ソロモン	栄養士
・小澤 彰 (八千代市)	ニカラグア	数学教育
・島中 一俊 (千葉市)	ミャンマー	コンピュータ技術
・多田 ノブオ (千葉市)	ベトナム	再生エネルギー
・服部 正 (八街市)	コスタリカ	体操競技
・半田 滋 (市原市)	コロンビア	鉱業